

日 時 平成25年10月3日(木) 9:00~9:45

場 所 附属小1年3組教室

指導者 筒井 泰登

## 本授業の主張点

入門期における説明文の読み取りを、カードを用いながら進めます。本授業では、「役目」「工夫」「使い方」などの「読みの観点」を学級内の学習用語として持たせながら、書いてあることを正しく読み取らせます。さらに、**終わりの段落**の必要性を考えさせ『いろいろなふね』の文章を「はじめ」「なか」「おわり」3つの構成ととらえさせて内容の大体を読み取らせます。

## 1 単元名 「のりものずかんをつくろう」

『いろいろなふね』（東京書籍1年下）

## 2 単元の目標

- ◎ 「役目」や「工夫」などの「読みの観点」に着目しながら**内容の大体**を読むことができる。
- 習得した「読みの観点」や順序意識をもとに「のりものずかん」を作ることができる。

## 3 評価規準【学力デザイン レベル1より】

- 「のりものずかん」を作るために教材文を読んでいる。【関】
- ◎ 「役目」「工夫」「使い方」などの「読みの観点」を手がかりに、**内容の大体**を読むことができる。【読】
- 習得した「読みの観点」や順序意識をもとに「のりものずかん」を作ることができる。【読】

## 4 単元とその指導

## (1) 児童観

本学級の児童は、入門期における基礎的・基本的な国語の学習（文字の読み書き、**文や文章**の読み書きなど）を積み重ねてきた。「読みの観点」に関しては、1年生最初の説明文である『どうやってみをまもるのかな』（東京書籍1年上）の学習において、以下の「読みの観点」について発言している。

- A：お話しには、**題名**がある。
- B：「**だれがことば**」（主語）がある。
- C：「**なにになにことば**」（修飾語）がある。
- D：「**うごきことば**」（述語）がある。
- E：「は、を」の「**くっつきことば**（助詞）」がある。
- F：「**だれがことば**」や「**なにになにことば**」や「**うごきことば**」で**文**ができています。
- G：文には**句読点**がある。
- H：文があるまって**文章**ができています。
- I：一字下がった**文**の始まり（段落）がある。
- J：お話の初めに、「**はじめ**」の文がある。
- K：お話の中に「**しつもん**」（問い）と「**こたえ**」（答え）がある。

表のように、文を構成する語句に着目することができるようになってきたが、「おわり」がある**文章**や筆者の意図については、学習したことがなく、**内容の大体**としてとらえることはできていない。

## (2) 教材観

本教材は、いろいろな船についての**役目**、それに対する**工夫**、その**使い方**を説明した文章である。児童は、その**役目**や**工夫**に興味をもちながら乗り物図鑑を見ているような感覚で読み進めることができる。「〇は、～ためのふねです。」(**「役目」**)。「このふねには、〇〇があります。」「このふねは、△△をつんでいます。」(**「工夫」**)。「～します。」(**「使い方」**)を書き表した文が繰り返されている構成である。「きゃくせん」「フェリーボート」「ぎよせん」「しょうぼうてい」が登場し、それらの**役目**と**工夫**と**使い方**が説明されているとともに、登場する船の順序は筆者の意図が反映されている。したがって、本教材は、説明文の読み方を学習するとともに、筆者の意図について考えることができる文章であると考え、以下にまとめる。

- 〈1〉筆者は、それぞれの船の説明に、**「役目」「工夫」「使い方」**という文章構成を行っている。そのため、3つの観点で読ませることで、内容を正しく読み取らせることができる。
- 〈2〉「ふねには、いろいろなものがあります。」という書き出しから始まり、「いろいろな船がそれぞれのやく目にあうようにつくられています。」とまとめられている。これは「はじめ」「なか」「おわり」の3つの文章構成への出会いであり、中学年に以降につながっていく。
- 〈3〉筆者は、いろいろな船を登場させる順序について考えさせることで、誰でも乗ることのできる専門性の低い船から特殊な知識や技能を持った人しか乗ることのできない専門性の高い船へと並べている。そこで、筆者の編集の意図、つまり順序意識を持たせて書くことによる表現活動へと連動させることができる。

本教材は、**「役目」**や**「工夫」「使い方」**といった「読みの観点」で**内容の大体**を正確にとらえるとともに、類似する乗り物を集めて、それらを自分なりの順序意識をもって編集させる表現活動へとつなぐことができる。そのため、「読みの観点」群を用いて児童に乗り物図鑑を書かせるなど「書くことの観点」群に連動させる言語活動を仕組むことが可能な教材である。

## (3) 指導観

本単元では、「読みの観点」を「知って、使って、使えるようにする」段階的な指導を行う。単元を貫く言語活動を「のりものずかん」づくりとして学習を進めさせる。

第一次では、乗り物の**「役目」**や**「工夫」**から乗り物について興味や関心を持たせ、「のりものずかん」作りを通して学習に誘う。

第二次では、4つの船が、どのような**役目**のために、どのような**工夫**がされて、どのような**使い方**をされているのかを読み取らせるために、各**段落**を色枠で囲み、各**段落**に名前を付けさせる。学級内の学習用語を「読みの観点」として用いながら**内容の大体**としてとらえていく。**「役目」**を赤枠、**「工夫」**を緑枠、**「使い方」**を青枠で囲み、文章構成をつかませる。また、書き出しの「いろいろな」が4つの船の説明を経て、最後の段落で「それぞれの」に集束されている文章を**「おわり」**としてとらえさせる。それらを「のりものずかん(1)」としてパンフレット形式の用紙に一目で分かるようにまとめさせたい。

本時は、「しょうぼうてい」について読み取らせるとともに『いろいろなふね』の文章全体を**「はじめ」「なか」「おわり」**の3つの構成として読み取らせる。まず、**繰り返し**や**文末表現**に注意しながら、各**段落**を色で囲ませ**文章構成**をとらえさせる。次に、『どうやってみをまもるのかな』と比較することで**終わりの段落**の必要性を考えさせて、**終わりの段落**のよさを味わわせたい。

次時では、4つの船が登場した順序に筆者の意図があることを知らせるために、4つの船に自分が乗ることができるかどうかを考えさせ、話し合わせたい。それらを総合して**内容の大体**の読み取りとする。

第三次では、「のりものずかん(2)」として好きな乗り物について調べ、教材文の文章構成を活用したり自分なりの順序意識に沿ったりして、その他の「のりものずかん」作りや鑑賞会へと発展させる。類似するものを集め、その中から自分なりの編集意図を持ち、その意図に沿って「のりものずかん(2)」づくりを行うことで、体系的に物事を並べる第一歩としたい。

5 指導計画 (全 13 時間)

※ゴシックは視点に関わる部分

次	時	学 習 者		指 導 者			
		意 識	学習活動	意 図	指導及び支援【評価の観点】		
一	1	いろいろな船の <b>役目</b> や <b>工夫</b> をたのしく図鑑にできるよ。	教材文を通読するとともに、今後の学習活動を知る。	乗り物の役目や工夫を図鑑にまとめることで学習に興味や関心を持たせる。	・多種多様な船があることを知らせるために船の画像を提示する。 ・「のりものずかん」を提示して、図鑑を作ることを知らせ、学習に興味を持たせる。【関】		
	2	船にはいろいろな <b>役目</b> や <b>工夫</b> などがあるようだ。	教材文「きやくせん」を通読し、学習課題を知る。	児童の「読みの観点」を確認する。学習の見通しを持たせる。	・各 <b>段落</b> を読み取り、「 <b>役目</b> 」「 <b>工夫</b> 」「 <b>使い方</b> 」を「読みの観点」とし、文末表現に着目させながら読み取らせる。【読】		
二	3	「フェリーボート」や「ぎよせん」についてわかったよ。色分けて <b>繰り返し</b> になっていることが分かるよ。	「フェリーボート」や「ぎよせん」についての <b>文章</b> を色枠で囲み、 <b>文章構成</b> を確認する。	各 <b>段落</b> に何が書いてあるのかを色別に囲みながら、 <b>内容の大体</b> をとらえさせる。	・「フェリーボート」や「ぎよせん」の <b>文章構成</b> が <b>繰り返し</b> になっていることを理解させるために「きやくせん」を基に各 <b>段落</b> (部屋) を色別に囲む活動を仕組む。【読】 「 <b>役目</b> 」…赤 「 <b>工夫</b> 」…緑 「 <b>使い方</b> 」…青		
	4 【本時】	・これまでの船と同じ書き方だ。だから、色別に囲むこともできるよ。 ・「 <b>おわり</b> 」が一番言いたいことだ。	「しょうぼうてい」の <b>文章構成</b> を確認する。また、 <b>終わりの段落</b> の必要性について考える。	<b>文章構成</b> を確認し、まとまりのよさを味わわせる。また、「はじめ」「なか」「おわり」の文章構成を理解させる。	・ <b>繰り返し</b> に着目させ、「しょうぼうてい」の <b>段落</b> を赤、緑、青の色別に囲む活動を仕組む。【読】 ・ <b>終わりの段落</b> の必要性を感じ取らせるために、既習の教材と比較し、 <b>終わりの段落</b> を切り取る。		
三	5	どうして4つの船はこの順番なの。	登場した船の順番を考える。	筆者の順序意識を理解させる。	専門性に気づかせるために、4つの船に自分がどうすれば乗ることができるか話し合わせる。		
	6	好きな乗り物の図鑑を作りたいな。	他の乗り物で図鑑作りの練習をする。	図鑑に書く項目を確認させる。	・図鑑に書く項目を理解させるために「 <b>役目</b> 」や「 <b>工夫</b> 」に着目させる。		
	7	学んだことを使って、楽しい乗り物図鑑をつくるぞ。	自分なりの発想で乗り物を選んだり想像したりする。	自由な発想から順序意識につながる編集意図を持たせる。	・自由な発想を促すために、夢の乗り物や行ってみたい所などを考えさせる。		
	8		図鑑に編集する。	自分の編集意図で編集させる。	・「 <b>役目</b> 」「 <b>工夫</b> 」「 <b>使い方</b> 」などの「読みの観点」に着目するように、『いろいろなふね』の「のりものずかん(1)」を参考にするように促す。【書】		
	9				昔→今→未来の順序にしようかな。		
10	11	12	13	・みんなの図鑑はどうだろう。 ・いろいろ考えて作った「のりものずかん(2)」を見てほしいなあ。	自分の図鑑を紹介するとともに、学級みんなの図鑑を鑑賞する。	自分の図鑑について発表させるとともに、友だちの図鑑を鑑賞させる。	・お互いに発表や鑑賞ができるように掲示して、ポスターセッションを設定する。【話・聞】

## 6 本時の学習（本時4 / 13）

### (1) 目標

□ 学習目標

- ・ いろいろなふねのぶんしょうのくみたてかたをしろう。

○ 指導目標

- ・ **内容の大体**を読み取らせるために、「読みの観点」（「役目」「工夫」「使い方」）を色別に示す。
- ・ **終わりの段落**のよさを味わわせるために、必要性について考えさせる。

◇ 評価規準

- ・ 各**段落**の内容を「役目」「工夫」「使い方」の観点から正しく読み取り、色別に囲むことができる。  
また、**終わりの段落**の必要性を理解することができる。【読むこと】

### (2) 展開

※ゴシックは視点に関わる部分

過程	学習活動	教師の働きかけ（○）と形成的評価（◆）
下積みカード ↑ ↓ 指導目標となるカード ↑ ↓ カードの活用	1 前時の学習を振り返る。 2 本時のめあてをつかむ。	○前項の「フェリーボート」や「ぎよせん」の「のりものずかん」の学習を振り返る。
	いろいろなふねのぶんしょうのくみたてかたをしろう。	
	3 しょうぼうていについて読み取る。 (1) 各段落の内容を読み取り、色別に囲む。	○各 <b>段落</b> を「部屋」として囲ませるために、前時までの学習で使用した拡大シートを提示する。
	【予想される発言内容①】 ・「～ためのふねです。」があるから「 <b>役目</b> 」だよ。これまでも同じ「 <b>役目</b> 」の文から始まったよ。 ・前のお話と同じ <b>繰り返し</b> だよ。	「 <b>役目</b> 」…赤 「 <b>工夫</b> 」…緑 「 <b>使い方</b> 」…青 ○色を分けて囲ませたり文末表現に着目させたりすることで、 <b>繰り返し</b> の表現を確認させる。 ・「～ためのふねです。」（「 <b>役目</b> 」）、「～があります。」（「～をつんでいます。」（「 <b>工夫</b> 」）、「～します。」（「 <b>使い方</b> 」） ○ <b>工夫</b> を理解させるためにポンプやホースのくすり等の語句の補助を行う。 ○しょうぼうていの図鑑を作成させるために、しょうぼうていに積載物をシールで貼らせる。 ○文章構成の違いを比較させるために、『どうやってみをまもるのかな』の文を提示する。 ○ <b>終わりの段落</b> の必要性を感じ取らせるために <b>終わりの段落</b> を切り取る。 ○ <b>終わりの段落</b> が必要か不必要か意見を発表させる。
(2) しょうぼうていの <b>工夫</b> を図鑑に記入する。	◆「読みの観点」を用いて <b>内容の大体</b> を読み取ることができるか。（ワークシート、発言） A 「 <b>役目</b> 」「 <b>工夫</b> 」「 <b>使い方</b> 」を <b>文章</b> 中の表現を使って明確にとらえるとともに、教材文を3つの構成としてとらえることができる。 →「のりものずかん（1）」の構成を確認させる。 B 「 <b>役目</b> 」「 <b>工夫</b> 」「 <b>使い方</b> 」を <b>文章</b> 中の表現を使って明確にとらえるとともに、 <b>終わりの段落</b> の必要性を理解することができる。 → <b>終わりの段落</b> の切り取りが必要か不必要か考えさせる。 C 「 <b>役目</b> 」「 <b>工夫</b> 」「 <b>使い方</b> 」や <b>終わりの段落</b> の必要性をとらえることが難しい。 →前時までの乗り物についての <b>文章構成</b> を振り返らせたり、 <b>終わりの段落</b> がまとめたのはたらしきをしていることに着目させたりする。	
(3) <b>終わりの文</b> について読み取る。	【予想される発言内容③】 T:『どうやってみをまもるのかな』では、最後の文はなかったね。必要かな？ C:『どうやってみをまもるのかな』にはなかったから、なくてもいい文かもしれない。 T:では、切り取ってみようか。 C:え～っ。 C:やっぱり、せっかく書いてあるから大事な文だと思うよ。 T:この文は、しょうぼうていのことについてだけ書いてあるのかな？ C:「それぞれ」って書いてあるから、4つの船のことだ。 C:4つの船のことをまとめているんだ。 T:なぜ、ここでまとめたのかな？ C:一番言いたいことを言うためだ。	
4 船の登場した順序を確認し、その順序の理由を考えることを知らせる。	○ <b>終わりの段落</b> を「おわり」として、「はじめ」「なか」「おわり」のまとまりとして紹介する。 ○「のりものずかん（1）」を参考にしながら、次時は、登場した船の順序を確かめることを伝える。	